



# 医療教育開発センター ニューズレター

徳島大学大学院  
ヘルスバイオサイエンス研究部  
医療教育開発センター

## 1 巻頭言

## 2 副センター長の紹介

## 3 取組紹介

- スキルス・ラボのご案内
- 頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム
- 組織横断型クラスターにおける大学院教育支援

## 4 これからの主な取組

## 1 巻頭言



### ～職種連携教育による 基礎的・汎用的能力の育成～

医療教育開発センター長 赤池 雅史

近年、大学教育における基礎的・汎用的能力の教育に注目が集まっており、これには、コミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力などの「汎用的技能」、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市

民としての社会的責任、生涯学習力を含めた「態度・志向性・自己管理能力」、知識・技能・態度等を総合的に活用し、課題を解決する能力である「統合的な学習経験と創造的思考力」などが提言されています(中央教育審議会答申)。一方、チーム医療・患者中心医療における安全や質の確保において最も重要とされているノンテクニカルスキル(ソフトスキル)は、医療における基礎的・汎用的能力そのものといえます。

このような能力は、実践力、いわゆる“アート”の要素が大きく、これまでは主として、診療現場で時間をかけて指導者との師弟関係や患者医療人関係を構築する過程で、「暗黙知」として習得されてきたのではないのでしょうか。しかしながら、最近では、医療の標準化、医療資源の有効活用あるいは経営的視点から、臓器別診療による診療の効率化、職種間分業の徹底、診療ガイドラインやクリティカルパスの普及が進んだ結果、基礎的・汎用的能力を卒業後に自然に身につけることが困難になりつつあります。このような診療現場における教育環境の変化に対応し、かつ、教育負担の増加を伴わない新しい卒前医療教育システムの確立が必要とされていると思います。

蔵本地区の医療系学部が進めている職種連携教育(Inter-professional education)の手法は、“お互いから学ぶ”、あるいは“お互いについて学ぶ”という過程で、専門的知識をお互いが交換・受容するために、高度なコミュニケーション能力、プレゼンテーション力、論理的思考力などの基礎的・汎用的技能が不可欠であるため、これらの能力の修得に非常に適していると考えられます。基礎的・汎用的能力の教育は、これまで、教養教育の中で議論されることが多かったように思いますが、医療系の教育・研究機関が集約している蔵本地区の特徴を活かして、医療職種連携教育のアウトカムとしても位置付けるべきではないかと思います。医療教育開発センターでは、様々な教育の取組によって、そのようなアウトカムへの到達に貢献できるように、これからも努力してまいります。

## 2 副センター長の紹介 ●●●

### 岩田 貴(医療教育開発センター専任准教授)

専任准教授として1期目が終了しました。前任の寺嶋先生が築かれた業績を継承するのが精一杯でしたが、ありがたくも、もう1期務めることをご指示いただきました。右肩上がりの利用件数のスキルス・ラボでの実習を充実させるべく「より臨床的な場面、シナリオ設定」に基づいたシミュレーション教育のコンテンツを作成し、実践しています。卒前卒後教育だけでなく、地域と連携して生涯教育、復職支援の場としてのスキルス・ラボの活用方法を考案し、地域に発信できるよう努力しております。さらに昨年から取り組んでおります海外からの視察、実技実習を含む見学に対応すべく英語テキストの作成や、英語による指導法に磨きをかけて、本学の学生参加型の「国際スキルス・ラボ」への準備を進めています。将来はこれら新しい試みをまとめて全国に発信する予定です。



### 野間隆文(口腔科学教育部教授)

平成25年度から、歯学部および口腔科学教育部の代表として副センター長を務めることになりました。

少子高齢化社会を迎え、人口構成が変化しつつある今日、医療現場においては、刻々と変化していく社会的ニーズに柔軟に対応する人材が求められています。医療教育開発センターは、その社会的ニーズをしっかりと受け止め、教育プログラムの中に取り込んでいくことが重要と感じています。その流れの中で、徳島大学の研究活動も、グローバル化時代のニーズに応えていくための先進的な課題への挑戦が期待されていると思います。そのためには進取の気風を有する若手研究者の育成が重要な課題です。蔵本キャンパスから世界を跨いで活躍する人材を輩出できることを目指して取り組みたいと考えています。



### 土屋浩一郎(薬科学教育部教授)

昨年度に引き続き、副センター長として医療教育開発センターの活動に参加することになりました。医療教育開発センターは蔵本キャンパスにおける組織横断的な医療人育成教育の場として中心的役割を果たしていますが、薬学部では医療教育開発センターを通じ1年生への早期体験実習、4年生の実務実習事前学習・OSCEへの参加、5年生の病院実習でのIPE導入等に取り組んでいます。薬科学教育部では薬学専攻と創薬科学専攻の2専攻を有し、特に薬学専攻では臨床に根ざした臨床薬剤師、専門薬剤師、そしてレギュラトリーサイエンスに精通した医療薬学研究者を養成することを掲げていることから、医療教育開発センターおよび他の教育部と協力が不可欠です。副センター長として微力ながらセンターの発展に取り組んで参ります。



### 高橋 章(栄養生命科学教育部教授)

栄養生命科学教育部の代表として医療教育開発センターの副センター長のメンバーとなりました。よろしくお願いいたします。

栄養生命科学教育部は、臨床に強い栄養学教育を掲げ、栄養に関する臨床教育を中心に行う改革を行っています。臨床実習を豊富に取り入れた教育システムを目指しており、生命科学系の各教育部が蔵本地区に集中している徳島大学だからこそ行えることであり、日本では他に類を見ない試みです。このため他の教育部とこれまで以上に密接な連携体制を構築していくことが重要で、医療教育開発センターを中心とした活動に積極的に関わっていきたいと考えています。



### 谷岡哲也(保健科学教育部教授)

保健科学教育部では、大学院博士前期課程が設置され6年、後期課程が設置され4年が経過しました。設置以来、前期・後期課程ともに毎年、入学者の学生定員は充足しています。前期課程では109名が修士号を取得、後期課程では平成23年に医用情報科学領域が2名、平成24年に生涯健康支援学領域が2名、平成25年に医用検査学領域が1名、博士(保健学)の学位を取得しました。今後の目標は、地域の医療現場に役に立つ高度専門職医療人や国際的視野から保健医療を担うことができる医療人の育成、また世界的な研究成果や革新を創出する研究者を育成することです。そのためには、学位授与に関する教員の意識改革や我々教員が模範を示すこと、加えて教育指導体制を充実することが重要と考えます。ヘルスバイオサイエンス研究部の先生方や海外の大学とも連携して、さらに飛躍できるようにしていきたいと思っています。ご協力よろしくお願い申し上げます。





## 3 取組紹介 ●●●

### ■ スキルス・ラボ講習会のご案内

医療教育開発センターでは様々なスキルス・ラボ講習会を開催しています。今回は外科系・消化器領域のものをご紹介します。詳細につきましては、お気軽にお問合せ下さい。

#### 中心静脈カテーテル挿入個別講習会

目的：超音波ガイド下頸静脈中心静脈カテーテル挿入方法とその介助方法を習得する。

対象：医師(研修医)、看護師など

内容：手技や解剖学的知識の確認、コミュニケーションを含めた挿入方法、介助方法を消化器外科医のセンター教員が指導します。頸静脈だけでなく、鎖骨下やそけい部のカテーテル挿入方法の指導も可能です。毎月2回、1回につき定員2名で開催しています。



#### 消化器外科ライブ手術映像解説セミナー(TV 会議システム)

目的：遠隔地で最新の手術映像を視聴しながら教員の指導を受けることで、受講者が理解を深めるとともに、地域における手術術式の均一化を図る。

対象：学生、研修医、レジデントなど

内容：光ケーブルを利用したテレビ会議システムを用いて、徳島県立三好病院で行われる同意を得た患者の外科手術を配信し、それを視聴しながら、受信側のセンター教員が疾患の概要や治療方法、術式アトラス等の解説を行います。徳島大学と県立三好病院を一体化した教育が可能です。



#### バーチャル腹腔鏡下手術手技セミナー

目的：より実際の手術に近い体験を通じ、局所解剖の理解と外科手術の理解、技能向上を目指す。

対象：医学部生(クリニカルクラークシップ)など

内容：腹腔鏡下バーチャルシミュレーター「Lap Mentor™」を用いて、より手術に近い体験ができます。

トレーニングボックスを用いた鉗子操作トレーニングを合わせて行うことにより、手術に対する理解度と技術が高まります。月1回開催しています。



#### 胃管挿入手技セミナー

目的：安全な胃管挿入手技を習得する。

対象：医学部生(クリニカルクラークシップ)など

内容：胃管挿入は基本的な手技の一つです。消化器外科医のセンター教員が、安全でスムーズな挿入方法を解剖学的知識や患者配慮の声かけとともに指導します。



■頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム

「疾患ニュートリオームを基盤とした加齢による循環器障害研究の国際ネットワーク構築」報告

本プログラムが最終年度を迎えました。7名の若手研究員が研究活動をしています。

<留学終了>

- ミュンヘン工科大学(ドイツ)
- NIEHS/NIH(米国)

<留学中>

- ボストン大学(米国)
- レディング大学(英国)
- ロチェスター大学(米国)
- クリーブランドクリニック(米国)
- エール大学、オハイオ州立大学(米国)

\*帰国研究員による学内報告会が開催されます。

- 第4回頭脳循環リサーチカンファレンス:平成25年9月20日(金)17:00-18:00 医学部第五会議室(医学臨床A棟2F)
- 第5回頭脳循環リサーチカンファレンス:平成25年10月4日(金)16:00-17:30 医学部第五会議室(医学臨床A棟2F)



レディング大学(英国)



ミュンヘン工科大学(ドイツ)

■組織横断型クラスターにおける大学院教育支援

平成21年度より教育クラスターによる大学院教育支援が継続されています。



- クラスターコアセミナー  
平成24年度:6クラスターにて合計35回開講。
- ミニリポート

	参加人数					
	教員	院生	学部生	特別講師	事務	計
平成21年度	76	66	1	8	0	151
平成22年度	79	71	5	10	2	167
平成23年度	80	61	8	7	0	156
平成24年度	85	68	19	7	0	179

4 これからの主な取組 ●●●

●2013 Tokushima Bioscience Retreat

日時:平成25年9月19日(木)~21日(土)  
場所:香川県 リゾートホテルオリビアン小豆島  
特別講師:中川 修 先生(奈良県立医科大学教授)

●第7回「チーム医療入門」蔵本地区区1年生WS

日時:平成25年9月30日(月)13:00~17:00  
場所:蔵本キャンパス(大塚講堂他)  
講師:安井 清孝 先生(福島県立医科大学災害医療総合学習センター教員)  
演題:福島の間場から

●第5回医療教育講演会

日時:平成25年11月6日(水)18:00~19:30  
場所:大塚講堂  
講師:熊坂 義裕 先生(盛岡大学栄養科学部教授)  
演題:東日本大震災2年半、地域・生活の復興とは

●第3回How to医療コミュニケーション教育  
~医歯薬学教育アウトカムに応じた模擬患者育成~

日時:平成25年11月16日(土)9:00~12:00  
場所:医学部第三、第四会議室  
講師:藤崎 和彦 先生(岐阜大学医学教育開発研究センター教授)

●学会活動●

●第1回日本シミュレーション医療教育学会大会

2013年7月6日(新潟市)  
『腹腔鏡下手術トレーニングボックスを用いた鏡視下手術手技理解促進のための基礎的検討』  
岩田 貴<sup>1,2)</sup>、赤池雅史<sup>1)</sup>、長宗雅美<sup>1)</sup>、福富美紀<sup>1)</sup>、島田光生<sup>2)</sup>  
HBS研究部医療教育開発センター<sup>1)</sup>、消化器・移植外科学<sup>2)</sup>

●第45回日本医学教育学会大会

2013年7月26~27日(千葉市)  
パネルディスカッション:グローバル化に対応した教育業績評価  
『臨床医学の教育業績評価』  
赤池雅史、三笠洋明、西村明儒  
医学部教育支援センター  
『ルーブリック評価を活用した項目特性分析による記述式試験問題の評価』  
三笠洋明、赤池雅史、西村明儒  
医学部教育支援センター

『システム、支援、フィードバックに着眼した腹腔鏡下手術トレーニング』  
岩田 貴<sup>1,2)</sup>、島田光生<sup>2)</sup>、長宗雅美<sup>1)</sup>、福富美紀<sup>1)</sup>、赤池雅史<sup>1)</sup>  
HBS研究部医療教育開発センター<sup>1)</sup>、消化器・移植外科学<sup>2)</sup>  
『OSCEにおける模擬患者演技の標準化を目標としたトレーニングの方策』  
長宗雅美、岩田 貴、福富美紀、石田加寿子、赤池雅史  
HBS研究部医療教育開発センター

●第247回徳島医学会学術集会

2013年8月4日(徳島市)  
『腹腔鏡下手術トレーニングボックスを用いた鏡視下手術手技理解促進のための基礎的検討』  
岩田 貴<sup>1,2)</sup>、赤池雅史<sup>1)</sup>、長宗雅美<sup>1)</sup>、福富美紀<sup>1)</sup>、島田光生<sup>2)</sup>  
HBS研究部医療教育開発センター<sup>1)</sup>、消化器・移植外科学<sup>2)</sup>